第3分科会

大学情報のオープン化とICT活用

2010年11月12日
大学職員情報化研究講習会

Contents

１．大学情報のオープン化の背景

２．公開すべき情報とステークホルダー

３．オープン化の現状と課題

４．ICTを活用した課題解決のヒント

５．まとめと今後の展開

Contents

１．大学情報のオープン化の背景

２．公開すべき情報とステークホルダー

３．オープン化の現状と課題

４．ICTを活用した課題解決のヒント

５．まとめと今後の展開

１－１．大学情報をオープン化する背景等

１．ステークホルダーへの周知・深耕

２．教職員への啓発

３．情報公開の義務化

↓

社会からの信頼の獲得

Contents

１．大学情報のオープン化の背景

２．公開すべき情報とステークホルダー

３．オープン化の現状と課題

４．ICTを活用した課題解決のヒント

５．まとめと今後の展開

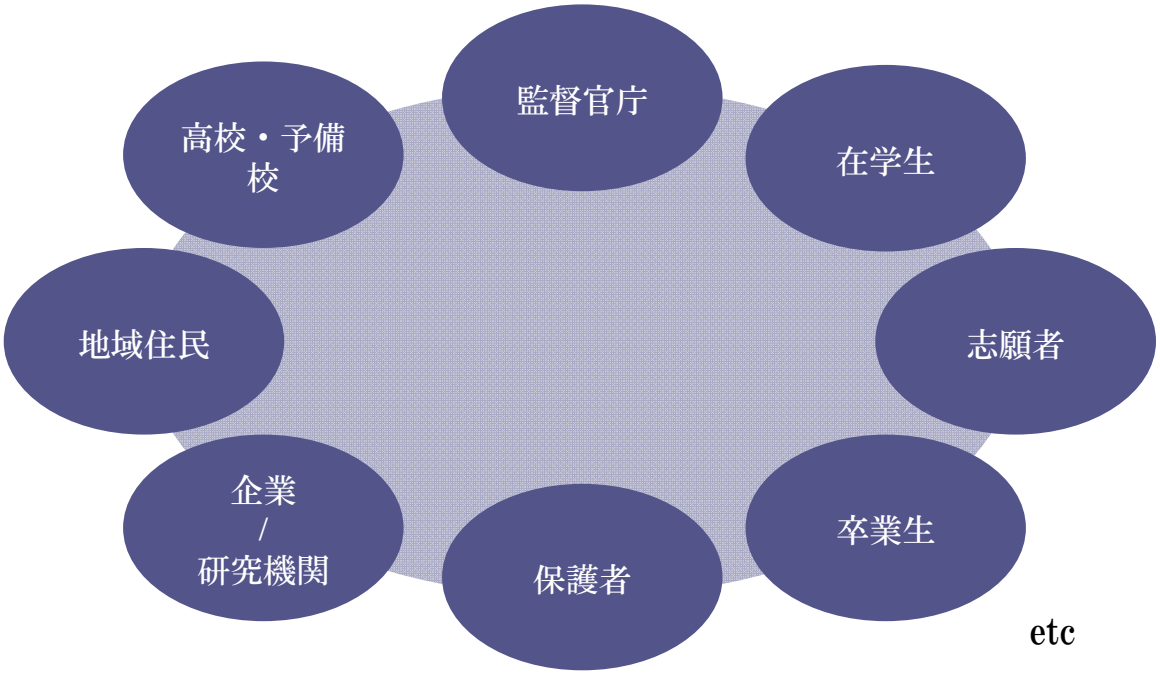
２－１．公開すべき情報の種類（１）

１．学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的
２．専任教員数
３．校地･校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
４．授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
５．教員組織、各教員が有する学位及び業績
６．入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数
７．授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画(シラバス又は年間授業計画の概要)

２－１．公開すべき情報の種類（２）

８．学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準
（必修･選択･自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位）
９．学生の修学､進路選択及び心身の健康等に係る支援
１０．教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報 等
１１．財務に関する情報（含む募金使途）
１２．産学官連携、地域との連携
１３．大学の将来に関する計画
１４．大学に対する外部からの声、評価

２－２．オープン化の対象となるステークホルダー



etc

Contents

1．大学情報のオープン化の背景

2．公開すべき情報とステークホルダー

3．オープン化の現状と課題

4．ICTを活用した課題解決のヒント

5．まとめと今後の展開

3－1．現状の整理と課題の発見

		公開すべき大学の情報	①ステークホルダーへの大学情報の周知	②内部への情報提供	③情報公開義務	④広く社会の信頼を得ることにつながる	①十分公開 2点 ※WEB	②不十分な公開 1点	③未公開 0点	集計
2	1	学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的	○		○	○				14
3	2	専任教員数	○		○	○				13
4	3	校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境	○		○	○				11
5	4	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用	○		○	○				14
6	5	教員組織、各教員が有する学位及び業績	○	○	○	○				5
7	6	入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業・修了者数、進学者数、就職者数	○	○	○	○				8
8	7	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画(シラバス又は年間授業計画の概要)	○	○	○	○				11
9	8	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準(必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位)	○	○	○	○				11
10	9	学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	○	○	○	○				10
11	10	教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報 等	○	○	○	○				9
12	11	財務に関する情報(含む募金使途)	○	○		○				14
13	12	産学官連携、地域との連携	○	○		○				10
14	13	大学の将来に関する計画	○	○		○				10
15	14	大学に対する外部からの声、評価	○	○		○				13

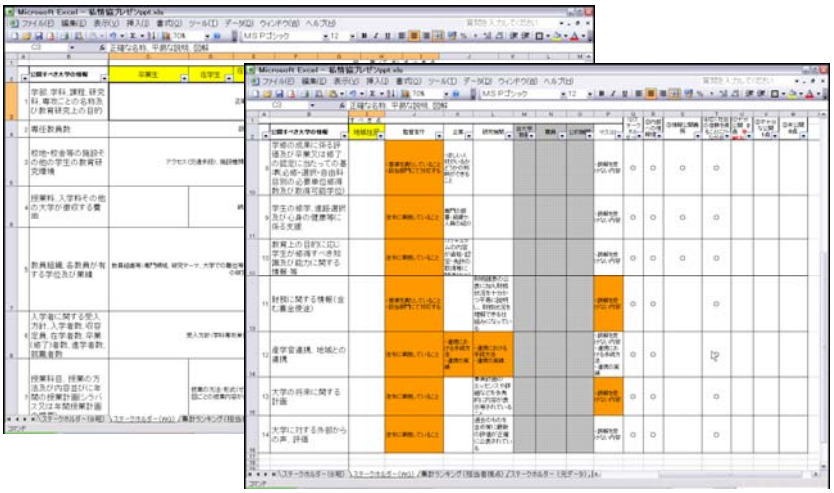
コンテンツ2の現状を各大学ごとに達成度として得点化し、その多寡により課題を顕在化させる

３－２．課題の抽出

		公開すべき大学の情報	①ステークホルダーへの大学情報の周知	②内部への情報提供	③情報公開能力	④広く社会の信頼を得ることにつながる	①十分公開2点 ※WEB	②不十分な公開1点	③未公開0点	集計
2	5	教員組織、各教員が有する学位及び業績	○	○	○	○				5
3	6	入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数	○	○	○	○				8
4	10	教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報 等	○	○	○	○				9
5	9	学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	○	○	○	○				10
6	12	産学官連携、地域との連携	○	○		○				10
7	13	大学の将来に関する計画	○	○		○				10
8	3	校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境	○		○	○				11
9	7	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画(シラバス又は年間授業計画の概要)	○	○	○	○				11
10	8	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準(必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位)	○	○	○	○				11
11	2	専任教員数	○		○	○				13
12	14	大学に対する外部からの声、評価	○	○		○				13
13	1	学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的	○		○	○				14
14	4	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用	○		○	○				14
15	11	財務に関する情報(含む募金使途)	○	○		○				14

特に得点の低い項目を重点項目として抽出する

３－３．オープン化における留意点の検討



ステークホルダーごとに、留意点を検討する

３－４．重点課題

１．教員組織、各教員が有する学位及び業績
→教員の同意と協力が必要

２．入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数
→センシティブな内容の公開に関して高度な判断が必要

３．ステークホルダーに合わせた情報発信
→インタラクティブな仕組みが必要

Contents

１．大学情報のオープン化の背景

２．公開すべき情報とステークホルダー

３．オープン化の現状と課題

４．ICTを活用した課題解決のヒント

５．まとめと今後の展開

４－１．ICTを活用した課題解決のヒント

１．情報の検索性

利用者が知りたい情報を速やかに閲覧できる

具体例：サイト内検索など

２．情報の発信

専門知識が無くても理解できる情報を発信する

具体例：動画配信など

３．情報の相互伝達

一方的な情報発信だけでなく、利用者からのフィードバックを受け入れる

具体例：問い合わせ窓口、FAQ機能

４－２．企業 A の取組み

・サイト内検索
　検索語候補表示、検索結果にヒットしたページのサムネイルを表示(PDFも可能)

大学特有の多岐にわたる情報と多様なステークホルダーを正確に紐付けられる

４－３．企業Ｂの取組み

・IRライブラリー・トップインタビュー
　インタビュー形式の動画を配信。

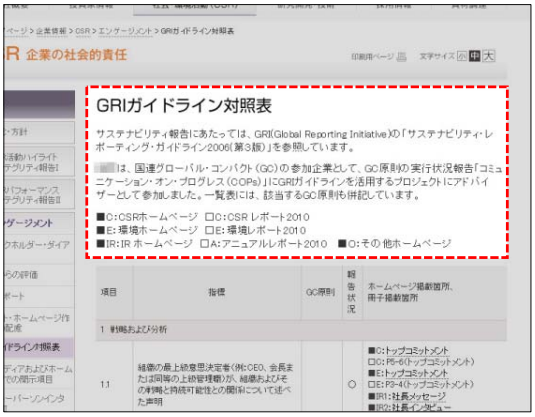
予備知識が無くても、わかりやすく情報を伝えられる

４－４．企業Ｃの取組み

・よくあるご質問
　質問事項と回答をデータベース化

ステークホルダーの与件を明確化、同時にナレッジを蓄積し、適切な情報を提供し続けることで関係強化に繋げる

４－５．GRIガイドラインへの準拠（例：企業Ｄ）



標準的なガイドラインに準拠することにより、CSRの信頼性を担保

Contents

１．大学情報のオープン化の背景

２．公開すべき情報とステークホルダー

３．オープン化の現状と課題

４．ICTを活用した課題解決のヒント

５．まとめと今後の展開

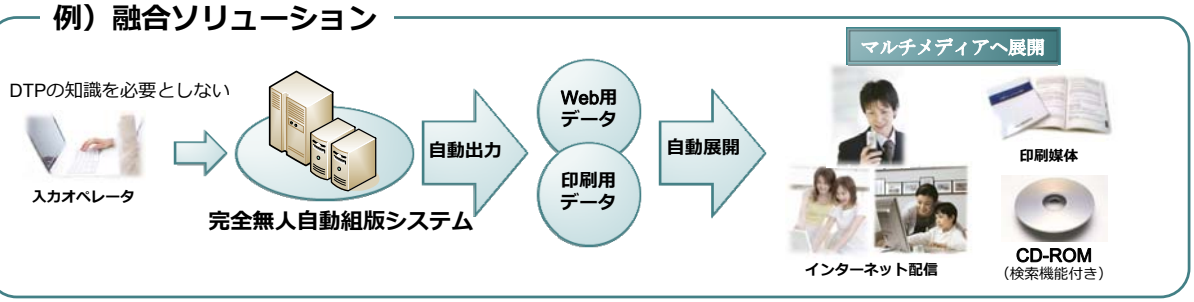
５－１．まとめと今後の展開

既に実績のあるICTを活用したベストプラクティスを適用することで、簡易にオープン化を成功させることができる。

更に多くの事例を分析・適用していくことで、個々のステークホルダーに最適化された情報をオープン化できると期待できる。

補足．次の一手

ワンソースマルチユースという概念

一つの情報をマルチメディア（Web／印刷／CD-ROM など）へ出力する事が求められている。※別紙詳細

例）融合ソリューション